

報告第 1 6 号

教育委員会事務の点検及び評価について

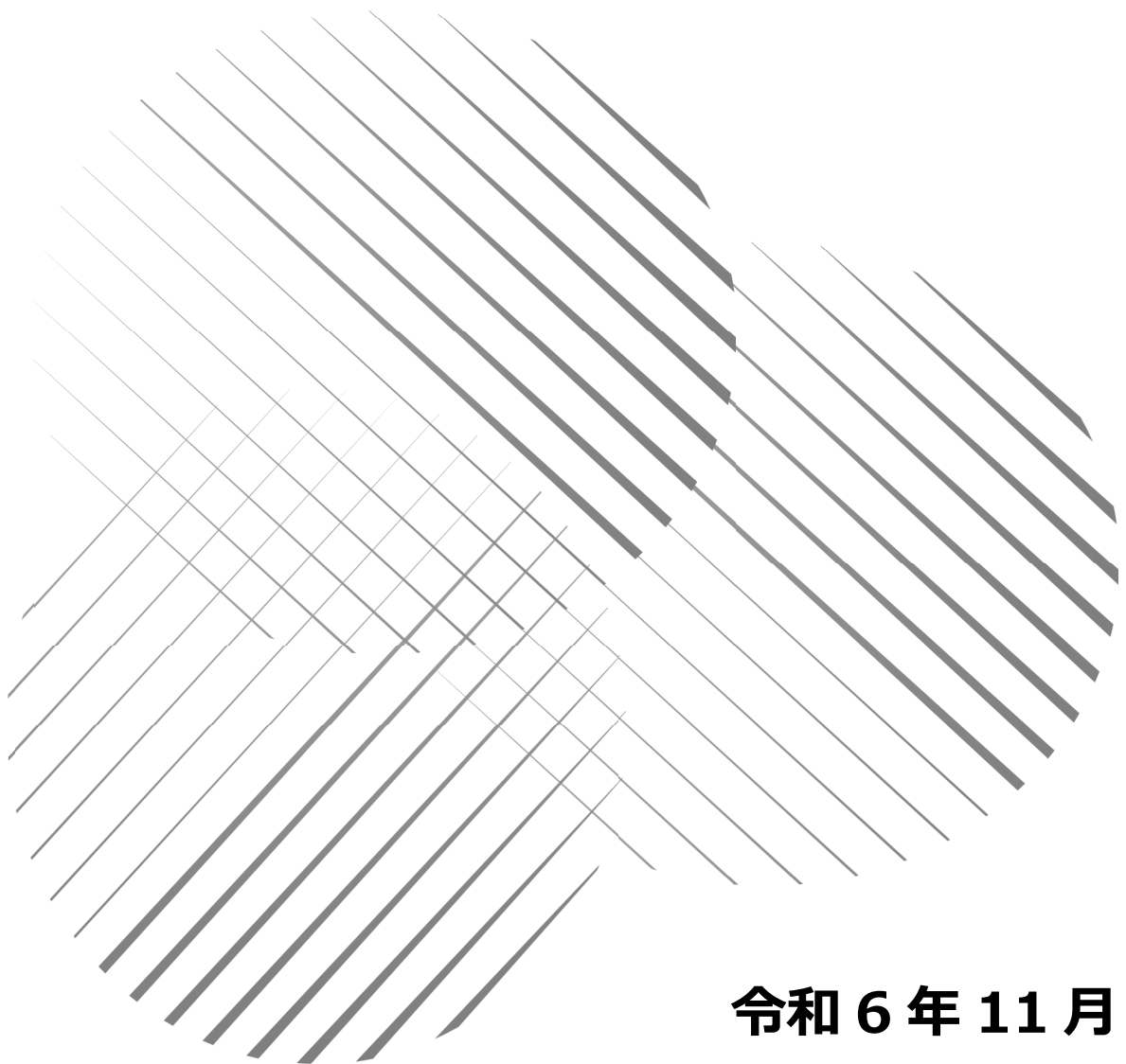
教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成したので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 3 1 年法律第 1 6 2 号）第 2 6 条第 1 項の規定により、報告する。

令和 6 年 1 2 月 4 日提出

柳井市教育委員会

教育長 西 元 良 治

**令和 6 年度
教育委員会点検・評価報告書
(対象：令和 5 年度事業分)**



**令和 6 年 11 月
柳井市教育委員会**

目 次

1 趣旨	… 5 頁
2 前回の学識経験者による主な知見と反映	… 5 頁
3 点検及び評価の実施	… 6 頁
4 点検及び評価	… 7 頁
(1) 事務事業の評価結果集計（全体）	
(2) 事務事業の評価結果集計（箇所別）	
(3) 具体的施策と個別評価票	
愛の1 ～ 愛の7 … 9～19 頁	
夢の1 ～ 夢の6 … 20～27 頁	
志の1 ～ 志の8 … 28～39 頁	
4-(1) ～ 4-(5) … 40～45 頁	
(4) 令和5年度重点事項における個別評価	… 46 頁
《学校教育》	
《社会教育》	
《スポーツ・文化》	
《環境整備》	
5 学識経験者の知見	… 51 頁
(1) 点検及び評価全般	
(2) 取組ごとの知見	
6 今後の取組に向けて	… 53 頁

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。

柳井市教育委員会では、法の規定に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、令和 5 年度の教育委員会の取組の執行状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見も踏まえた上で、点検及び評価を行いました。その結果をまとめましたので、報告します。

2 前年度の学識経験者等による主な知見と反映

- (1) 歴史伝統の保護に関しては、教材開発をしたり、ゲストティーチャーを招聘したりと、いろいろな場の設定を行っていることは評価したい。ただ、それが子どもにとっての豊かな学習として、実りある結果に結びついていることが重要で、しっかりと、その進捗を見定めておく必要がある。例えば、ゲストティーチャーによる授業は、主に地域の人に依頼しているが、丸投げではないかと感じることもあった。それぞれの子どもの性格なり、状況を知っているのは教員であり、カリキュラムの内容として、「ゲストティーチャー」と「教員」のそれぞれの出番があるはずである。そのことは、校長、教頭含め、教員として押さえておくべき。
- (2) 地域は変わらないけれども、校長や教員の異動によって、学校と地域との関係が簡単に変わってしまうこともある。そうならないためにも、誰でも関係の構築ができるようにプログラム化しておくことが大事。持続可能な地域カリキュラムとなるよう教育委員会としても指導に努められたい。
- (3) 学習は、個で始まって個に帰る、その考え方を持った上で、集い、高め合っていくことが、本来のアクティブ・ラーニングの手法と思う。はじめから、わっと集まり、すぐ話し合ってしまうと、自分の考えを持てないまま流されて、何かまとまっているように見えてしまうこともある。

»アクティブ・ラーニングを実践する上では、講義型授業が多いことへの改善策として、「子どもたちに動きを付ける」、「子どもたちに考えさせる」といった時間を持たせることに努めている。個人が一つのことをじっくりと考え、自分としての考えを持ち、友達と一緒にあって、どうなのかという一連のプロセスを踏むことがとても大切と考えている。

課題にもよるが、「アクティブ・ラーニング」という言葉のイメージから、教員も子どもに対して、短絡的に動きのあることを求めがちになりやすい。本人がしっかり意見を持った上で、友達はどうかのだろうとの時間を作れるよう助言等を図りたい。

3 点検及び評価の実施

(1) 点検及び評価の対象とした取組

本市では、平成 27 年 11 月に「柳井市教育大綱・柳井市教育振興基本計画」（計画期間：平成 28 年度～令和 2 年度）を策定し、教育目標を『愛・夢・志をはぐくむ教育』と定め、サブタイトルを「スクール・コミュニティによる教育のまちづくりの推進」とし、その実現に取り組んでまいりました。

また、令和 3 年 1 月には、それまでの教育を取り巻く環境や課題の変化を考慮した第 2 期の柳井市教育大綱・柳井市教育振興基本計画（令和 3～7 年度）を策定し、現在、その実現に取り組んでいるところです。

本計画では、学校を中心とした幅広い年齢層の市民が交流を深め、新たな絆を生み出し、学校、家庭、地域が一体となった人づくり・まちづくりを推進することによって、教育目標の達成をめざすこととしています。

このたびの評価の対象とした取組は、この第 2 期柳井市教育大綱・教育振興基本計画に基づき、令和 5 年度に教育委員会が実施した事務事業のうち、「令和 5 年度柳井市の教育計画」に掲げた具体的な取組について点検及び評価を行いました。

(2) 点検及び評価の方法

個別評価票として、具体的な取組の成果と有効性について点検し、成果指標について下記の評価基準に基づく 1 次評価（内部評価）を行いました。

（成果指標の評価基準）

- | | |
|---------------------------------|-----------|
| A：目的を達成できた。 | [100%以上] |
| B：取組における改善事項はあるものの、概ね目的を達成できた。 | [65～99%] |
| C：目的の一部を達成できたが、取組の改善が必要である。 | [35～64%] |
| D：目的の一部しか達成できず、取組の抜本的な改善が必要である。 | [0～34%] |

また、点検及び評価の客観性の確保とその活用を図るため、教育に関し学識経験を有する者として教育委員会が委嘱した 3 人の委員による 2 次評価（外部評価）を実施し、「学識経験者の知見」として記載しています。

(3) 点検及び評価の流れ

事務事業の選定（「令和 5 年度 柳井市の教育計画」に掲げる具体的な取組 107 取組）

- 1 次評価（教育委員会：内部評価）
- 2 次評価（学識経験者の知見：外部評価）
- 教育委員会会議での協議・議決
- 市議会への報告及び公表

4 点検及び評価

(1) 事務事業の評価結果集計（全体）

評価対象年度	業務評価				
	A	B	C	D	計
令和5年度	17	9	3	2	31
構成比%	54.8	12.9	16.1	6.5	100.0

(2) 事務事業の評価結果集計（箇所別）

担当課	業務評価				
	A	B	C	D	計
教 育 総 務 課	2	1			3
学 校 教 育 課	10	2	1	2	15
生 涯 学 習 ・ ス ポ ー ツ 推 進 課	4	4	1		9
人 権 教 育 室		1			1
図 書 館		1			1
サ ン ビ ー ム や な い	1				1
学 校 給 食 セ ン タ ー			1		1
計	17	9	3	2	31

(3) 具体的施策と個別評価票

愛、夢、志をはぐくむ教育

～ スクール・コミュニティによる教育のまちづくりの推進 ～

1 自分を愛し、人を愛し、地域を愛する教育の推進

～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の1

人権教育の推進

愛の2

生涯学習の推進

愛の3

青少年の健全育成

愛の4

芸術・文化の振興

愛の5

スポーツ・レクリエーション活動の振興

愛の6

歴史・伝統の継承と保護

愛の7

郷土教材の開発と地域人材による郷土学習

2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進

～学校、家庭、地域の連携による人づくり、まちづくりの推進～

夢の1

学校運営協議会の機能の強化

夢の2

学校応援団のさらなる充実

夢の3

地域協育ネットの充実

夢の4

幼保小中高連携の強化

夢の5

家庭の教育力を高めるための支援の強化

夢の6

放課後子ども教室の充実

3 志を実現させるための力の育成

～「生きる力」の確実な育成を基盤としたキャリア教育の推進～

志の1

「確かな学力」の育成

志の2

「豊かな心」の育成

志の3

「健やかな体」の育成

志の4

キャリア教育の推進

志の5

特別支援教育の充実

志の6

生徒指導の充実

志の7

幼児教育の充実

志の8

教職員の資質向上

4 基本方針を支える環境整備

(1) 情報発信の充実

(4) ICT環境の整備・充実

(2) 安全で快適な学びの環境づくり

(5) 学校教材、図書の整備・充実

(3) 学校の適正規模・適正配置

- 【基本方針】 1 自分を愛し、人を愛し、郷土を愛する教育の推進
～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の1 人権教育の推進

業務の 対象	学校、企業、保護者、 市民	意図(対象 をどうし たいのか)	一人ひとりの人権意識の向上を図る。				
指標 1	人権教育研修会の開催 件数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		33	23	27	32		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	682 千円	659 千円	962 千円				

[主な取組の成果と有効性]

① 人権教育の推進

○ 人権教育研修会の開催 [人権教育室]

- ・学校、企業、保護者及び市民を対象とした人権講座を、延べ32回開催
- ・子どもの問題やインターネット上の問題をテーマとした講座をはじめ、人権課題等の状況に関する講義を実施
- ・人権教育推進委員会を2回開催

② 相談・推進体制の充実

○ 指導者の養成 [人権教育室]

- ・指導者対象の研修、講座を8回開催
- ・講義後のアンケートに、「人権は、とても多くのジャンルにまたがっているし、もっと知っておかなければならない事柄であると感じた。」との感想が記されるなど、人権意識向上へ向けた指導者としての動機づけにつながる評価を複数得た。

③ 人権啓発活動の推進

○ 児童生徒の作品募集 [人権教育室]

- ・人権啓発ポスターの募集により、市内小・中学校から271人の応募(毎年開催)
- ・受賞作品の市役所ロビー展示や市報掲載により、保護者や市民に広く周知

<人権教育研修会の開催件数> [人権教育室]

評価 1	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	B	B	B		
主な 理由	・成果指標33回/年に対し、32回/年の成果であったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・研修会の開催回数や参加者数は、概ねコロナ禍以前の数値に戻ってきている。
- ・地域の課題や関心をとらえつつ、幅広く継続的に開催していくことが重要である。

- 【基本方針】 1 自分を愛し、人を愛し、郷土を愛する教育の推進
～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の2 生涯学習の推進

業務の 対象	学校、市民	意図(対象 をどうし たいのか)	学習機会の確保と、学校図書館や複合図書館開館に 向けての連携を図る。				
指標 2	図書館連携会議の開催 件数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		3	2	3	2		
3	公民館講座や各種教室 の開催件数(講座/年)	100	61	76	77		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	97,126 千円	65,393 千円	139,510 千円				

[主な取組の成果と有効性]

① 普及啓発活動の推進

- 学習情報の提供 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・グループサークルの紹介冊子を各公民館等に配布・設置。併せて、市ホームページに掲載
 - ・各種教室や講座の開催情報を、市報、市ホームページ、公民館だよりに掲載し周知

② 学習活動の多面的支援と相談体制の充実

- しらかべ学遊館との連携 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・しらかべ学遊館に社会教育指導員2人を配置し、本課との業務を連携
 - ・展示室に生活民具を常設展示し、やないの暮らしを紹介。社会科見学等17件
- 学校図書館との連携強化 [図書館]
 - ・学校司書との連携会議を2回開催
 - ・6/30開催、講演会「学校教育と学校図書館について」
 - ・10/31に児童書の見計らいを実施し、児童書を充実
 - ・1/21開催、学校司書を対象としたみどりが丘図書館内覧会
- 図書資料の充実 [図書館]
 - ・図書購入費9,667冊21,268千円、視聴覚資料購入費911点8,732千円、貸出点数118,732冊
 - ・新たに1社の雑誌スポンサーを得て、購入契約合計14件15誌
- 図書館の魅力の発信 [図書館]
 - ・図書館だよりの発行(5月から毎月)
 - ・図書館サポーター募集、応募58人
 - ・7/29開催、子ども向け「アニメ映画上映会」、参加17人
 - ・9/16開催、郷土史「浦家」学習会、参加21人
 - ・10/21開催、一般向け「映画上映会」、参加22人
 - ・11/1開催、健康講座、参加11人
 - ・11/11開催、大島図書館まつり「子どものひろば」、参加118人(人数限定)
 - ・11/23開催、古本リユース市、参加約120人

・3/10 開催、柳井図書館フィナーレイベント、参加約 270 人

○ 複合図書館への対応 [図書館]

・図書館協議会 3 回開催

・1/16、1/21、1/25、2/7、2/8、2/11、2/14 開催、みどりが丘図書館関係者内覧会、

・2/15、2/17、2/18、2/24、2/25、3/17 開催、一般市民見学会、参加約 950 人

○ 本に対する興味・関心の醸成 [図書館]

・マタニティ・ブックギフト事業開始

・7/26、7/28、8/3 開催、市内在住小学 5・6 年生対象の一日図書館員 各日 2 人ずつ計 6 人

・12/16 開催、中学生ビブリオバトル大会、参加 8 人、観戦者約 35 人

・3/9、3/10 開催、ぬいぐるみの図書館おとまり会、参加 18 人

③ 人材・組織の育成

○ 公民館講座や各種教室の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]

・年間を通し中央公民館及び各地区公民館において、77 件の講座、教室を開催

○ 各種研修会への参加 [生涯学習・スポーツ推進課]

・公民館職員東部地区研修（周南市）参加 24 人

④ 学習成果発表会の充実

○ 公民館まつり等の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]

・11/23 開催「柳井まつり協賛展覧会」、「中央及び各地区公民館まつり」等

⑤ 生涯学習推進体制の整備充実

○ 講演会の実施 [生涯学習・スポーツ推進課]

・7/8、7/22、8/5 開催、「山口県立大学サテライトカレッジ」

○ 公民館の整備 [生涯学習・スポーツ推進課]

・阿月公民館整備のため、旧校舎・地区体育館・旧保育所等の解体工事を実施

○ 社会教育施設の活用 [生涯学習・スポーツ推進課]

・8/5、9/29 開催、星の見える丘工房「天体観測会」、参加延べ 34 人

・新庄公民館及び星の見える丘工房での陶芸活動を継続実施

<図書館連携会議の開催件数> [図書館]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
2	B	A	B		
主な理由	・成果指標 3 回/年に対し、2 回開催の成果であったこと。				

<公民館講座や各種教室の開催件数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
3	C	B	B		
主な理由	・感染症対策をしながら講座・教室を開催したが、成果指標 100 回/年に対し、77 回実施の成果であったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・生活スタイルや教育的機能の変化により、多様な学習機会の提供が求められている。
- ・幅広く提供主体を求め、従来どおり以外の学習機会を模索することも大切である。
- ・学校や地域との連携をより強化し、図書館サポーター等、市民の参画を得ながらみどりが丘図書館の運営を行っていくとともに、来館者の増加に向け市民のニーズに応じたイベントやワークショップなどの取り組みを行っていく必要がある。
- ・開架書架が増えたことにより、蔵書数の増加を図るとともに、市民のニーズに応じた図書資料の充実を図る必要がある。

[参考]



12/16 開催「中学生ビブリオバトル大会」

ゲーム感覚を取り入れた書評合戦で、全国大会も開催されている。

- 1) 発表者ごとに面白いと思う本の紹介を発表
- 2) 参加者により各発表内容についての討論
- 3) 投票を行い、優秀者を決定



3/9-10 開催「ぬいぐるみおとまり会」

全国的にも開催されている図書館のイベント。読み聞かせに参加した後、子どもたちから預かったぬいぐるみが読書する様子を、図書館職員が写真に撮って、後日、ぬいぐるみと一緒に返却するもの



3/10 開催「柳井図書館フィナーレイベント」

現在地から移転新築する新図書館（みどりが丘図書館）の開館準備のため、一旦閉館する旧図書館において、「柳井図書館からありがとう」と題し、お話し会や写真ボード、クイズラリー等のイベントを開催。270 人を超える多くの参加により締めくくった。

- 【基本方針】 1 自分を愛し、人を愛し、郷土を愛する教育の推進
～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の 3 青少年の健全育成

業務の 対象	青少年	意図(対象 をどうし たいのか)	街頭補導やあいさつ運動を通じ、青少年の非行を防止する。				
指標 4	少年補導員による街頭 補導回数（回/年）	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		30	30	30	30		
経費	R 3		R 4		R 5		R 6
	2,162 千円		2,188 千円		2,258 千円		

〔主な取組の成果と有効性〕

① 青少年育成センターの充実

○ 街頭補導の実施 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・ 少年補導員 43 人により、市内全地区において巡視を 30 回実施
- ・ 青少年健全育成市民会議常任委員会を開催、状況報告や各地区取組内容の情報交換・共有
- ・ 7 月に青少年問題協議会を開催し、状況報告や取組内容の情報交換及び共有

② 青少年を取り巻く環境の整備

○ 小中高生徒指導連絡協議会への参加 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・ 6/30 開催の協議会で、小中学校及び関係機関による状況報告や情報を交換・共有

○ 二十歳の集いの開催 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・ 1/7 開催、「令和 6 年柳井市二十歳の集い」、参加 202 人

<少年補導員による街頭補導回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価 4	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A	A	A		
主な 理由	・ 成果指標 30 回/年に対し、30 回実施の成果であったこと。				

〔今後の課題と改善案〕

- ・ 少子化や生活様式の変化により、街中でこどもの姿を見かけることが少なくなっている。
- ・ SNS 対策も、併せて実施する必要がある。
- ・ 過去補導した店舗従業員等と人間関係をつくり、スムーズに活動できるよう努めている。
- ・ 効果的な街頭補導の方法について検討する必要がある。

- 【基本方針】 1 自分を愛し、人を愛し、郷土を愛する教育の推進
～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の4 芸術・文化の振興

業務の 対象	学校、団体、市民	意図(対象 をどうし たいのか)	芸術や文化に触れ合う機会の充実と、自主的な活動 への支援を推進する。				
指標 5	サンビームやない自主 文化事業の開催回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		3	1	5	5		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	454 千円	390 千円	4,137 千円				

〔主な取組の成果と有効性〕

① 文化にふれあう機会の充実

- 美術展覧会等の開催 [生涯学習・スポーツ推進課][図書館]
 - ・短詩型文学祭を開催、投稿数は短歌部門 50 首、俳句部門 52 句
 - ・11/11～15 開催「市美術展覧会」、出展数 154 点、来場者 1,039 人

② 自主的な芸術・文化活動の促進

- 自主文化事業の開催 [サンビームやない]
 - ・8/20 開催 劇団かかし座公演「オズの魔法使い」、入場 358 人
 - ・8/26 開催「次世代アーティストによるサマーコンサート」、入場 234 人
 - ・11/26 開催「第 33 回サザンセット音楽祭 洋楽の部」、入場 242 人
 - ・12/17 開催「スタインウェイを弾く会」、入場 193 人
 - ・1/14 開催「第 33 回サザンセット音楽祭 郷土芸能・邦楽の部」、入場 170 人
- 施設の適正な管理運営 [生涯学習・スポーツ推進課][サンビームやない]
 - ・市文化福祉会館・勤労青少年ホーム（指定管理）利用者 56,198 人
 - ・サンビームやない 使用率 32.6% 入場者数 17,716 人
 - ・サンビームやない修繕・改修…給湯・空調温熱源改修工事等

<サンビームやない自主文化事業の開催回数> [サンビームやない]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
5	D	A	A		
主な理由	・成果指標 3 回/年に対し、5 回開催の成果であったこと。 ・今年度は、(買取公演) 劇団かかし座公演『オズの魔法使い』を開催した。				

〔今後の課題と改善案〕

- ・出品者が固定化する傾向があるため、新たな出品者増加への周知を図る必要がある。
- ・サンビームは、買取公演を含めた企画運営に携わる自主文化事業があり、お客様のニーズに応えられる立案を検討する必要がある。
- ・個別施設計画の策定など、施設の長寿命化対策として改修を実施していく必要がある。

愛の5 スポーツ・レクリエーション活動の振興

業務の 対象	市民	意図(対象 をどうし たいのか)	スポーツ参加の機会拡充による健康の増進。				
指標 6	市主催大会への参加者 数(延べ人数)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		5,600	0	666	3,675		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	150,417 千円	158,187 千円	228,544 千円				

〔主な取組の成果と有効性〕

① 生涯スポーツの推進

○ スポーツ活動への参加促進 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・10/ 9 開催「市民スポーツ・レクリエーションのつどい」、参加 1,937 人、4 年ぶり
- ・12/10 開催「第 36 回市民駅伝競走大会」、参加 317 人、従来規模による
- ・1/ 8 開催「第 66 回柳井市ロードレース大会」、参加 309 人、従来規模による
- ・2/11 開催「琴石山健康ハイキング大会」、参加 250 人、従来規模による

② 技術力の向上

○ スポーツに関する競技水準の向上推進 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・市スポーツ協会を通じ、同協会が実施する加盟団体活性化事業や、優秀な成績を挙げた個人及び団体への表彰式の開催などに対し、競技水準向上に向けた取組に対する助成（柳井サッカー協会、柳井市フェンシング協会、柳井市バスケットボール協会）
- ・全国大会等出場者への激励金交付 163 件
- ・県体育大会への激励金、一般 125 件、スポーツ少年団 173 件

③ 人材の育成

○ スポーツを通じた青少年の健全育成 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・市スポーツ少年団団員募集の冊子を、市内全小学校児童に配布
- ・市スポーツ少年団主催の「親子交歓会」は 6 団体 118 人参加

④ スポーツによる地域活性化

○ 地域交流及び情報発信の推進 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・大学運動部等による「スポーツ合宿」の助成件数 9 件、延べ 1,979 人
- ・市内で開催する大会参加者への「スポーツ大会宿泊」の助成件数 20 件、延べ 970 人
- ・10/6 開催「サザンセット・ロングライド」、参加者 744 人

⑤ スポーツの場の充実及び施策の推進

○ 施設の整備及び利用の促進 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・アデリーホシパーク(柳井ウエルネスパーク)のベンチ更新、大型遊具の修繕を実施

・ バタフライアリーナ(市体育館)の耐震のため大型改修を実施

・ スポーツ施設の年間利用者数 466,605 人

○ スポーツに関する功績者の顕彰 [生涯学習・スポーツ推進課]

・ 市スポーツ推進条例、市教育委員会選奨規則及び市表彰規定に基づく功績等の情報収集

○ 部活動改革の推進 [生涯学習・スポーツ推進課]

・ やない部活動改革推進協議会を開催、学校部活動の地域連携・地域移行に係る取組を推進

・ 休日の学校部活動に外部指導者 12 人配置（9 部活動）

＜市主催大会への参加者数＞ [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
6	D	D	B		
主な理由	・ 長引くコロナ禍の影響により、市主催の大会への参加者は一時的に減少したが、令和5年度からは着実に回復の兆しを見せている。				

〔 今後の課題と改善案 〕

・ スポーツ推進計画を見直し、スポーツを中心とした交流人口増加を図ることで、市民のスポーツ活動への関心、参加が高まるよう内容の検討を行う必要がある。

〔参考〕 柳井市スポーツ少年団を構成する 22 団体

空手道	和道会空手道正心館 武心会柳井空手
剣道	カワノ道場 新庄少年剣友会 清徳館剣道
柔道	斉藤柔道クラブ
水泳	やないスイミングクラブ 柳北水泳
レスリング	大畠レスリング
硬式野球	ヤング S A D
ソフトボール	新庄ブルーイーグルス 余田みどり
軟式野球	伊陸ひむろ 大畠うずしおマリーンズ 柳井ゴールドスターズ軟式野球 柳北
サッカー	S A ファイターズ 周東エンジェルス
バスケットボール	新庄ミニバス 柳井バスケットボール
バドミントン	柳井 J B C
バレーボール	柳井 S A ボンバーズ ユナイト JVC

〔参考〕 柳井市スポーツ協会を構成する 22 団体

柳井サッカー協会 柳井市合気会 柳井市アーチェリー協会 柳井市空手道連盟
柳井市弓道連盟 柳井市グラウンド・ゴルフ協会 柳井市ゲートボール協会
柳井市剣道連盟 柳井市柔道協会 柳井市水泳連盟 柳井市スキー連盟
柳井市卓球協会 柳井市テニス協会 柳井市レスリング協会
柳井市バスケットボール協会 柳井市バドミントン協会 柳井市バレーボール協会
柳井市フェンシング協会 柳井市野球連盟 柳井市陸上競技協会
柳井ソフトテニス協会 柳井ソフトボール協会

〔参考〕 柳井レクリエーション協会を構成する 6 団体

S A アウトドアクラブ 柳井市アーチェリー協会 柳井市グラウンド・ゴルフ協会
柳井市ゲートボール協会 柳井市ソフトバレーボール連盟 柳井フォークダンスクラブ

- 【基本方針】 1 自分を愛し、人を愛し、郷土を愛する教育の推進
～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の6 歴史・伝統の継承と保護

業務の 対象	市民	意図(対象 をどうし たいのか)	郷土の歴史伝統を身近に感じる機会の提供と、次世代に継承する支援を行う。				
指標 7	歴史民俗資料館等での 団体及び学校利用回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		15	41	23	11		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	40,670 千円	23,796 千円	34,397 千円				

[主な取組の成果と有効性]

① 地域の文化遺産の保存と活用

- 歴史民俗資料館等施設の活用 [文化財室]
 - ・しらかべ学遊館で「黒島浜遺跡と与浦遺跡」「片山平遺跡、松成東遺跡発掘調査」の展示
 - ・月性展示館来館者 721 人
- 文化遺産の調査・保全 [文化財室]
 - ・小田家博物館の勘定蔵外壁修理を実施
 - ・落雷により被災した「氷室亀山神社の大モミ」の養生
 - ・強風により被災した「高山寺の大モクセイ」の養生
- 小田家博物館の文化財的価値の再確認のための調査 [文化財室]
 - ・建造物調査・民俗調査・文書調査等を総合的に実施
- 伝統的建造物群保存地区の保存事業 [文化財室]
 - ・特定物件 2 件の保存修理、緊急修理 3 件及び修景 1 件を実施
- 克己堂跡発掘調査
 - ・阿月公民館建設に伴う克己堂跡地の発掘調査を実施
- 市有形文化財指定
 - ・無量山長命寺の「木造阿弥陀如来坐像 1 軀」を市有形文化財に指定

② 伝統文化・芸能の保存・継承

- 活動の支援と後継者の育成 [文化財室]
 - ・阿月神明祭顕彰会への補助金交付

<歴史民俗資料館等での団体及び学校利用回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
7	A	A	B		
主な理由	・コロナ禍により増えていた県内からの見学者の減少によるもの				

[今後の課題、または改善案]

- ・未指定及び未確認となっている文化財を調査する必要がある。
- ・感染症対策により中止となった行事や祭り等の再開を支援する。

愛の7 郷土教材の開発と地域人材による郷土学習

業務の 対象	児童、生徒、 学校関係者	意図(対象 をどうし たいのか)	教職員と保護者、地域住民が連携しながら、地域の文化財や歴史的出来事を生かした教材を開発し、子どもたちが地域の伝統や文化に親しみや誇りを感じるような授業づくりを行う。				
指標 8	地域の文化財や歴史的 出来事の教材開発 (全校)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		13	13	0	0		
9	ゲストティーチャーに よる授業(全校)	13	13	13	14		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	483 千円	0 千円	0 千円				

〔主な取組の成果と有効性〕

① 地域の文化財や歴史的出来事を生かした教材開発

○ 地域の文化財や歴史的出来事の教材開発 [学校教育課]

- ・令和2年度作成の小学校社会科地域教材「ふるさと柳井」、及び令和3年度改訂の「ふるさと柳井(地図)」を活用し、社会科授業の特に地域学習の充実を図った。

○ 文化財の情報発信と活用 [文化財室]

- ・市文化福祉会館で「郷土史講座」を開催し、6回延べ263人の受講
- ・社会教育指導員による「郷土史コラム」を、市報に累計12回掲載
- ・発掘調査(県調査)は、余田「梶遺跡、鋳物師屋遺跡」を実施
- ・発掘調査報告展示(しらかべ学遊館)は、伊陸「片山平遺跡、松成東遺跡」を実施

② 生きた歴史を学ぶための、ゲストティーチャーによる授業の実施

○ ゲストティーチャーによる授業 [学校教育課]

- ・地域の人を講師に、『柳井の町』のはなしなど、地域の特色を生かした授業を実施
- ・小学校社会科では、地域農家の畑づくりや、田植えの体験型学習等を実施
- ・中学校総合的な学習の時間では、地域の企業や地域で働く方の職業講話等を実施

<地域の文化財や歴史的出来事の教材開発> [学校教育課]

評価 8	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A	D	D		
主な 理由	・「ふるさと柳井」、「ふるさと柳井(地図)」の教材開発を行っていないこと。				

<ゲストティーチャーによる授業> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
9	A	A	A		
主な理由	・全校において、学校教育目標や発達段階、教育課程に合った地域のゲストティーチャーを招聘することで、有用な学習支援ができたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・「ふるさと柳井」、「ふるさと柳井（地図）」を活用していく中で、気付きや課題を蓄積し、次回の改定に反映することが大切である。
- ・「ふるさと柳井」、「ふるさと柳井（地図）」のほかにも、それぞれの学校が地域の実情に応じた教材の活用や開発に努める。
- ・ゲストティーチャーによる授業を他分野で活用できるよう地域との連携を密にし、教育的資源の発掘と情報収集に継続して努める。

[参考]



無量山長命寺「木造阿弥陀如来坐像」



阿月公民館整備事業に伴う発掘調査（遺跡名：克己堂）

夢の1 学校運営協議会の機能の強化

業務の 対象		学校関係者 学校運営協議会委員	意図(対象 をどうし たいのか)	学校運営協議会をさらに充実させ、地域とともにあ る学校づくりを推進する。				
指標 10	コミュニティ・スクー ルの運営に関する教職 員対象の研修会等の実 施回数（回/年）		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
			1	2	2	2		
経費	R 3		R 4	R 5		R 6		R 7
	0 千円		0 千円	210 千円				

〔主な取組の成果と有効性〕

- ① 学校、家庭、地域住民の連携と協働に根ざしたコミュニティ・スクールの運営
 - コミュニティ・スクールの運営推進書の作成 [学校教育課]
 - ・各学校においてCS経営案を作成し、年間を見通した学校運営を図っている。
 - 地域に開かれた学校要覧の作成 [学校教育課]
 - ・学校要覧に、CS経営案や経営方針、学校応援団との連携の様子などを掲載
- ② スクール・コミュニティセンターを中心とした、学校運営協議会の活性化に向けた支援と情報発信
 - 学校運営協議会への支援 [学校教育課、生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・地域学校協働活動推進員や指導主事が、すべての学校の学校運営協議会に参加し、学校や地域の実態把握と各校との情報共有を図ることができた。
- ③ 教職員が一体となってコミュニティ・スクールの運営にあたる仕組みづくり
 - 校内体制の整備 [学校教育課]
 - ・地域連携担当教員を校務分掌に位置付けた体制を整備
 - ・学校運営協議会委員には、授業を定期的に公開し、助言を受ける場を設定
- ④ 地域住民との交流の拠点となるコミュニティ・ルームの整備・活用
 - コミュニティ・ルームの活用 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・コミュニティ・ルームを地域の活動場所として積極活用し、地域との交流を促進

＜コミュニティ・スクールの運営に関する教職員対象の研修会等の実施回数＞[学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
10	A	A	A		
主な理由	・「やない教育の日」や、地域連携教育合同研修会を実施し、すべての教職員がスクール・コミュニティについて理解を深めることができたこと。				

〔 今後の課題と改善案 〕

- ・地域連携担当教員だけでなく、すべての教職員の学校運営協議会への意識等が、さらに高まるよう、研修会等において説明の機会を設定する。
- ・学校、家庭、地域の協働活動への道筋を見出せるよう、県作成のCSハンドブックを活用し、その協議内容や進行方法を工夫する。

〔参考〕



地元の企業による出前授業



大畠小・中学校による塾議

夢の2 学校応援団のさらなる充実

業務の 対象		学校関係者、 学校応援団員	意図(対象 をどうし たいのか)	新たな人材の確保と学校の実情に応じた活動の支援 を推進することで学校教育の充実をめざす。				
指標 11	各学校の地域コーディネーターとの協議回数 (回/年)		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
			6	5	6	6		
経費	R 3		R 4	R 5		R 6		R 7
	258 千円		263 千円	249 千円				

[主な取組の成果と有効性]

- ① スクール・コミュニティセンターを中心とした、学校応援団の充実に向けた支援
 - 学校応援団研修会の実施 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・学校と地域をめぐる制度や仕組みに関する研修、本市の取組について協議
- ② スクール・コミュニティセンターによる、学校応援団に関する情報収集と情報発信
 - スクール・コミュニティだよりの発行 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・スクール・コミュニティだより「こやらい」の中で、市内各校の取組事例や、学校と地域をめぐる制度や仕組みについて紹介（学校応援団部分）
- ③ 学校応援団の新たな登録者の募集
 - 新たな学校応援団登録者の募集 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・市報や各学校制作のチラシ募集により、49 団体、1,077 人が登録
 - ・各学校の特色や地域性を生かして、年間延べ 19,314 人が活動
- ④ 校内コーディネーターの活動を支援
 - 地域コーディネーターとの情報交換 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・スクール・コミュニティセンターにおいて、各学校の地域コーディネーターが参加しての活動状況報告や意見交換会を 6 回開催

<各学校の地域コーディネーターとの協議回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
11	B	A	A		
主な理由	・学校運営協議会や地域コーディネーターの集会に参加し、学校と地域の活動把握などの情報共有を行うことができたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・スクール・コミュニティだよりを通して、小中学校と地域が連携して取り組んだ活動や、学校応援団のレベルアップに向けた取組などの好事例を共有する。
- ・多様な地域の人材の発掘と、参画に導く機会の提供に取り組む必要がある。

【基本方針】 2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進
～学校、家庭、地域の連携による人づくり、まちづくりの推進～

夢の 3 地域協育ネットの充実

業務の 対象	学校、保護者、 地域住民	意図(対象 をどうし たいのか)	地域ぐるみで子どもの学びや育ちを支援する仕組み づくりや活動を推進する。				
指標 12	スクール・コミュニティだよりの発行回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		3	10	12	13		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	1,207 千円	1,234 千円	1,314 千円				

[主な取組の成果と有効性]

- ① スクール・コミュニティセンターによる、地域協育ネットの活動の充実に向けた支援
 - 地域協育ネット協議会への参加 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・本市職員が、すべての学校の学校運営協議会と協育ネット協議会に参加し、他地域の好事例紹介や、地域連携に関する取組方針等を説明
 - ・地域コーディネーターに対して、課題解決に向けた働きかけの支援
- ② スクール・コミュニティセンターによる、地域協育ネットに関する情報収集と情報発信
 - スクール・コミュニティだよりの発行 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・スクール・コミュニティだより「こやらい」の中で、市内各校の取組事例や、学校と地域をめぐる制度や仕組みについて紹介（地域協育ネット部分）

<スクール・コミュニティだよりの発行回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
12	A	A	A		
主な理由	・成果指標3回/年に対し、13回/年発行し、市内各校の取組を紹介できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・成果指標を達成していることから、題材の深掘りや、センターの効果的活用などの編成内容の更改を検討する必要がある。

夢の4 幼保小中高連携の強化

業務の 対象	幼稚園、保育園（所）、 小学校、中学校、 高等学校	意図(対象 をどうし たいのか)	小・中学校の連携を核として幼稚園、保育園（所）、 高等学校との連携を強化することで、将来の地域社 会を支える人材の育成に努める。				
指標 13	校種間連携を推進する 協議会の開催回数 (各協議会1回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		4/4	3/4	3/4	3/4		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0 千円	0 千円	0 千円				

[主な取組の成果と有効性]

① 幼保小連携協議会の開催

○ 幼保小連携協議会の開催 [学校教育課]

- ・ 2 月、幼保小連携に関わる保育士、教諭等を対象とした協議会を 1 回開催
- ・ 発達段階における子どもの育ちを十分に理解し、一貫した指導体制の構築につなげた。
- ・ 「やない架け橋期カリキュラム」を作成し、幼保小の連携体制を確立

② 小中一貫教育に関する研究の推進

○ 小中一貫教育校の授業公開への参加 [学校教育課]

- ・ 各学校に、県教委主催の授業公開や附属学校による研究発表会の情報を発信することで、連続した 9 年間の学びについての意識の向上を図り、教職員の参加者数が増えた。

③ 校種間連携による教育活動の推進

○ 校種間連携を推進する協議会の開催 [学校教育課]

- ・ 「柳井地区小中高生徒指導連絡協議会」や「柳井市学校保健委員会」を通して、生徒指導や保健関係についての情報を共有し、連携を深めた。

<校種間連携を推進する協議会の開催回数> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
13	B	B	B		
主な理由	・ 校種間連携を推進する中で、カリキュラムの作成等、具体的な動きができたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ 幼、保、小、中、高の教職員がお互いを知ることから始まり、設定した共通のテーマに向け、さらに連携体制を強化することが必要である。
- ・ 幼保小連携については、年1回の取組から、年2回の取組とすることで、1年間の取組の計画と年度の反省を行い、内容の改善を図ることができる。

夢の5 家庭教育の教育力を高めるための支援の強化

業務の 対象	学校、保護者	意図(対象 をどうし たいのか)	家庭を支える多様なネットワークづくりをとおし て、家庭の教育力を高める。				
指標 14	目標の成果を検証する アンケートの実施回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		2	2	2	2		
15	保護者を対象にした研 修会の開催回数(回/年)	6	6	7	5		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	53 千円	34 千円	41 千円				

〔主な取組の成果と有効性〕

① 家庭の教育力を高めるための支援の充実

- 家庭教育支援チーム員の育成 [生涯学習・スポーツ推進課]
- ・ 県教委主催「家庭教育アドバイザー養成講座」の参加支援や、保護者を対象とした講座実施のための研修を実施

② 家庭児童相談員及び少年安全サポーターの配置

- 少年安全サポーターの活用 [生涯学習・スポーツ推進課]
- ・ 各小中学校における防犯指導・訓練を実施

③ 家庭や地域社会、異校種と連携した多様な体験活動の充実

- 地域の行事等への参画の働きかけ [学校教育課]
- ・ 地域の清掃活動や交流行事へ参加し、子どもたちが地域の一員としての自覚を高めることができた。
- ・ 米づくりや職場体験など学校と地域との連携した活動により、実体験を通じた学びの実感や充実を図ることができた。

④ 学校、家庭、地域の連携による「学びのサイクル」の確立 【志の1④】

- 学びのサイクルの質的な向上 [学校教育課]
- ・ 休日や長期休業期間において、異校種の生徒や地域の方が教師役を務めた学習会を実施し、学校での学びを家庭・地域とつなげることができた。

⑤ 家庭教育支援に係る情報提供や保護者間の人間関係づくりの機会の充実

- 保護者を対象にした研修会の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
- ・ 保護者同士の人間関係づくりを目的とした「グループワーク研修」を開催、4校 90 人参加

<目標の成果を検証するアンケートの実施回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
14	A	A	A		
主な理由	・保護者や地域へのアンケートを計画通り行うことができたこと。				

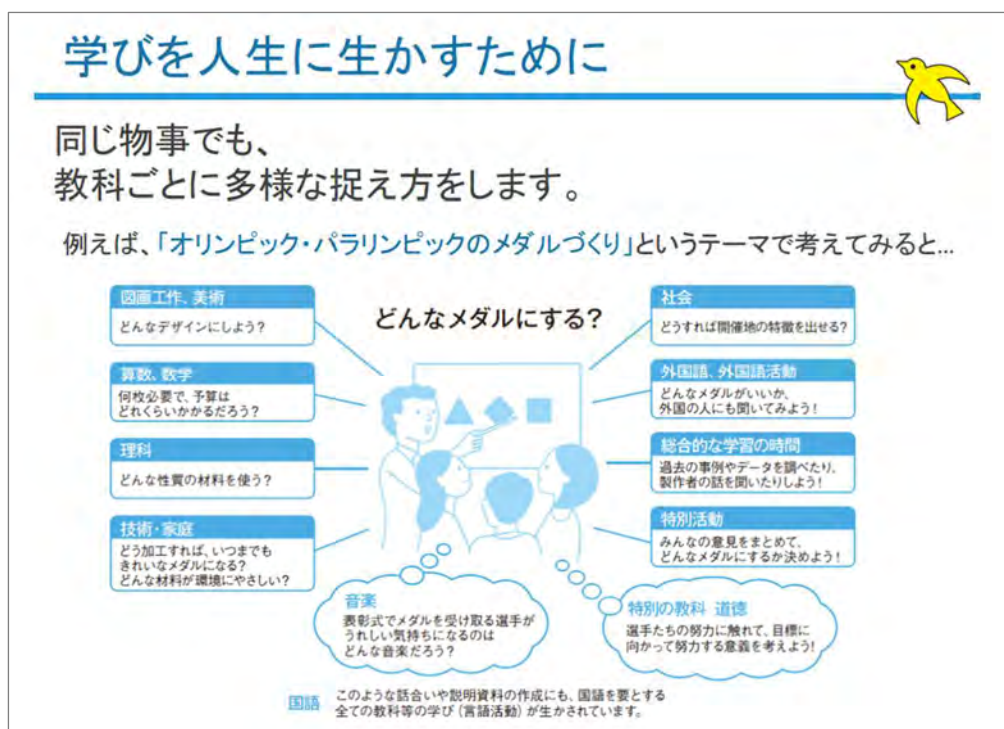
<保護者を対象にした研修会の開催回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
15	A	A	B		
主な理由	・成果指標6回/年に対し、5回/年の研修会を開催し、研修後のアンケートでは、その内容に対し、9割を超える肯定的な回答を得たこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・保護者の多様な人間関係が形成できるよう、家庭教育に関する保護者の講座を通して働きかける。
- ・山口県教育委員会主催「家庭教育アドバイザー養成講座」への参加を促し、保護者の子育てに関する不安や悩みを軽減する地域人材を育成する。

[参考]



学びを人生に生かすために 文部科学省

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afieldfile/2020/01/28/20200128_mxt_kouhou02_01.pdf

夢の6 放課後子ども教室の充実

業務の 対象	児童	意図(対象 をどうし たいのか)	子どもの遊び場としての放課後子ども教室の充実を 推進する。				
指標 16	放課後子ども教室の開 催回数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		24	4	13	10		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0 千円	0 千円	2 千円				

[主な取組の成果と有効性]

① しらかべ学遊館による放課後子ども教室の実施

- 放課後子ども教室の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
- ・ 昔の遊びや、ものづくり、ペンきょう会等の体験活動を6回開催

② 学校を単位とした放課後子ども教室の実施

- 各学校における放課後子ども教室の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
- ・ 昔の遊びやものづくり等の体験活動を4回開催

<放課後子ども教室の開催回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
16	D	C	C		
主な 理由	・ 成果指標 24 回/年に対し、10 回/年の開催となったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ 開催する地域の実情に応じたプログラムを展開する必要がある。
- ・ 中高生の学習ボランティアの応募が多いため、その活用方法を検討し、引き続き有効活用を図る。

志の1 「確かな学力」の育成

業務の対象		児童、生徒、 学校関係者	意図(対象をどうしたいのか)	学校の組織的な取組の軸として、家庭、地域が連携して子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等、そして主体的に学習に取り組む態度などの資質・能力を育成する。					
指標 17	校内外に向けた授業公開		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
			13	13	13	14			
経費	R 3		R 4	R 5		R 6		R 7	
	0 千円		0 千円	0 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 学習指導要領の着実な実施

- カリキュラム・マネジメント [学校教育課]
 - ・中学校区ごとの協議の中で、「学校・地域連携カリキュラム」の見直しを実施
- 学習の基盤となる力の育成 [学校教育課]
 - ・中学校区の研修会や市教委主催の授業研究会に、異校種教職員が参加し、様々な視点から授業改善に向けた協議の充実を図った。
 - ・学びのサイクルを意識した授業づくりを、市内全校において実践し、学力向上に努めた。
- 年間授業時数の確保 [学校教育課]
 - ・すべての学校で「年間指導時数」を確保し、授業を実施
- 算数・数学の基礎・基本の確実な習得 [学校教育課]
 - ・抽象的な学習内容が増加する小学3・4年生に、算数補助教員を市独自に配置し、少人数できめ細やかな指導を通して、学習内容の定着を図った。
 - ・一人一台端末にA Iドリルを導入(小2～中3)し、一人ひとりの学習ペースや理解度に応じた学びの充実を図った。

② アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善

- 校内外に向けた授業公開 [学校教育課]
 - ・「“学びのサイクル” 確認シート」を活用し、共通の視点から授業づくりの指導を実践
 - ・授業公開の情報を市内各校と学校教育課職員、教育委員等と共有し、幅広い視点からの授業参観を実施

③ データに基づいた着実なPDCAサイクルの実施

- 学力向上担当を集めた研究集会の実施 [学校教育課]
 - ・本市が取り組む施策の共通理解と、各校の学力向上への取組についての好事例を共有
 - ・学力向上担当の役割について、ワークシートを活用して協議するなど、担当者への意識向上を図った。
 - ・学力向上研究集会を年2回実施

④ 学校、家庭、地域の連携による「学びのサイクル」の確立 【夢の5④】

○ 学びのサイクルの質的な向上 [学校教育課]

- ・ 休日や長期休業期間を利用し、異校種の生徒が教師役を務めた学習会を実施し、学校での学びを家庭・地域とつなげることができた。
- ・ 学びのサイクルの取組を充実するため、学校と家庭、地域が課題等について共有することができた。また、家庭学習のあり方についても工夫改善を行った。

⑤ 読書活動の充実

○ 学校図書館の整備 [学校教育課]

- ・ 学校司書と司書教諭を中心として行う読書指導や小学校における「図書の時間」をとおし、学校図書館活用の促進が図れた。
- ・ 展示する本の種類や配置を工夫したり、委員会活動等において積極的に読書活動を推進したりするなど、児童、生徒と共になったの図書の環境づくりに工夫が見られた。

<校内外に向けた授業公開> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
17	A	A	A		
主な理由	・ すべての学校が校内外に向けた授業公開を行い、幅広い視点からの気づきを共有できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ 学校内における地域の人の活動の場や学びの場を設けること増えてきたので、今後さらにそうした場面を増やしていく。

[参考]



柳井小 6 年社会科公開授業

志の2 「豊かな心」の育成

業務の 対象		児童、生徒、 学校関係者	意図(対象 をどうし たいのか)	学校、家庭、地域が連携しながら、学校の教育活動全 体を通じた道徳教育に関する取組を工夫・改善する。				
指標 18	道徳授業セミナーや各 種研修会への参加や授 業公開（全校）		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
			13	13	13	14		
経費	R 3		R 4	R 5		R 6		R 7
	0千円		0千円	0千円				

[主な取組の成果と有効性]

① 道徳科の授業における「考え、議論する道徳」への質的変換

○ 「考え、議論する道徳」の実現に向けた指導 [学校教育課]

- ・ 県教委主催「道徳セミナー」の参加と、不参加の学校への資料共有を行い、授業観の変換を意識づけることができた。
- ・ 県教委作成「考え、議論する道徳」を基にした、各学校における道徳科の授業実践をとおり、授業力向上を図った。

② 豊かな心をはぐくむための体験活動の充実

○ 体験活動の年間指導計画への位置づけ [学校教育課]

- ・ 社会奉仕に関わるボランティア体験や、文化・芸術体験活動などを実施し、社会貢献を体感したり、実際の体験をとおりした学びを得たりすることができた。
(ぶどう栽培体験、神楽体験、剣舞体験など)

<道徳授業セミナーや各種研修会への参加や授業公開> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
18	A	A	A		
主な理由	・ 全学校とも、各種研修会への参加し、授業改善を図るとともに、参観日等の道徳科授業の公開による家庭との連携の充実を図れたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ 道徳科を重点的に校内研修のテーマに設定している学校は多くないので、全教職員の意識が高まるよう、教科横断的な視点を指導助言していく。

志の3 「健やかな心」の育成

業務の 対象	児童、生徒	意図(対象 をどうし たいのか)	健やかな体をつくり、安全・安心を確保する。				
指標 19	新体力テスト等のデータによる柔軟性	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		全国平均 を上回る	男 4/13 女 3/13	男 4/13 女 8/13	男 3/13 女 7/13		
20	食育のための巡回訪問 の回数（回/年・校）	1	8/13	14/13	20/14		
経費	R 3		R 4		R 5		R 6
	0 千円		0 千円		0 千円		

〔主な取組の成果と有効性〕

① 体力向上の推進

○ 柔軟性の向上 [学校教育課]

- ・各学校が作成した「体力向上レポート」を基に、体力の向上や運動習慣の改善に向けた各校の取組について助言
- ・新体力テストの柔軟性が全国平均を上回った学校は、男子が3校、女子が7校

② 学校保健の充実

○ 課題に即した学校保健活動 [学校教育課]

- ・学校保健委員会を2回開催し、小・中・高等学校間の課題について情報交換
- ・学校保健委員会のブロック研修において、設定したテーマの成果等を紀要にまとめ発行

③ 食育の充実

○ 食育のための巡回訪問 [学校給食センター]

- ・栄養教諭による食育指導（小学校7校において延べ20回実施）
- ・直接、児童生徒から素直な感想を得ることで、細かく配慮した献立の作成に反映

○ お弁当の日の推奨 [学校教育課]

- ・「マイランチデー」と称し、年3回のお弁当の日を中学校全校で実施。併せて、生徒の委員会活動等と連携し、写真の掲示やコンテストを開催、食育への意識の向上を図った。

○ 中学校給食費の無償化 [学校給食センター]

- ・中学校生徒保護者の経済的負担軽減のため、柳井市学校給食会へ給食費相当額を補助
- ・アレルギーにより弁当持参の生徒保護者には、公平性を図るため給食費相当額を補助

④ 安全教育の推進

○ 危険予測学習の実施 [学校教育課]

- ・全学校において、防犯を含む生活安全・交通安全・災害安全等の安全学習を実施
- ・「学校安全取組状況調査」を基に、安全教育への取組について指導・助言

<新体力テスト等のデータによる柔軟性> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
19	D	C	D		
主な理由	・対象校 26 校のうち、全国平均を上回る学校が 12 校から 10 校に減少したこと。				

<食育のための巡回訪問の回数> [学校給食センター]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
20	C	C	C		
主な理由	・全 14 校中、7 校での実施となったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・柔軟性の向上は、各校において体育の準備運動等で継続して取り組み、成果が上がった学校もあるが、市全体の平均値は男女ともに全国平均を下回っている。柔軟性以外にも課題のある 50m 走や握力について、共通理解を図ったり、好事例を共有したりし、改善を図っていく。
- ・中学校での「お弁当の日」の取組を小学校に紹介し、食への自立を促す。
- ・単年度で全学級を食育巡回訪問することは、時間割上難しく、各校調整のうえ可能な学校において実施している。食育動画や I C T 教材を活用するなど、より体感的な食育指導の実施に努める。

[参考]



給食の提供

学校給食法等に基づき、児童生徒の適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること等を目的に実施

1 日約 2,200 食調理

1 食当り小学校 260 円、中学校 310 円
ただし、中学校生徒分は市から補助支出



給食配送便

学校給食センターで調理された給食を、迅速かつ安全に市内小中学校に搬送
そよかぜ、なかよし、あすなろ、わか
くさの 4 車両により、配達と回収の 2 回
運行

志の4 キャリア教育の推進

業務の 対象	児童、生徒	意図(対象 をどうし たいのか)	志や夢を持ち、人間力と社会力を兼ね備えた社会人・ 職業人として自立できる				
指標 21	「二分の一成人式」や 「立志式」の実施(全校)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		13	13	13	13		
22	「学校・地域連携カリ キュラム」の作成(全校)	13	13	13	14		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	11 千円	13 千円	11 千円				

[主な取組の成果と有効性]

① 立志の教育の推進

○ 「二分の一成人式」や「立志式」の実施 [学校教育課]

- ・対象学年が在籍する学校すべてにおいて、「二分の一成人式」や「立志式」を実施
- ・生徒が、キャリア・パスポートを活用し、ふり返りと将来の見通しを繰り返すキャリア教育の視点をもって行事に参加し、自己肯定感を高めるきっかけにできた。

② 教育活動全体をととしたキャリア教育の推進

○ キャリア・パスポートの利用 [学校教育課]

- ・小中高 12 年にわたる毎年の活動記録を蓄積することで、次学年におけるキャリア形成につなげている。

③ 家庭や地域社会、異校種と連携した多様な体験活動の充実

○ 地域行事等への参画の働きかけ [学校教育課]

- ・地域行事や中学校の職場体験等への参加を働きかけている。

< 「二分の一成人式」や「立志式」の実施 > [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
21	A	A	A		
主な理由	・全学校で「二分の一成人式」と「立志式」を実施することができたこと。				

< 「学校・地域連携カリキュラム」の作成 > [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
22	A	A	A		
主な理由	・全学校で「学校・地域連携カリキュラム」を作成していること。				

[今後の課題と改善案]

- ・各学校とも「学校・地域連携カリキュラム」を児童生徒や保護者、地域の意見も取り入れながら定期的に見直し、ブラッシュアップしていく必要がある。

志の5 特別支援教育の充実

業務の 対象	教職員	意図(対象 をどうし たいのか)	1人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を推進することができるようになる。				
指標 23	「柳井市特別支援教育 推進週間」の実施回数 (全校実施2回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		2	2	2	2		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	64 千円	64 千円	64 千円				

〔主な取組の成果と有効性〕

① 相談支援体制の充実

○ 専門家会議の開催 [学校教育課]

- ・市内13ある幼稚園・保育園(所)に巡回訪問を行い意見交換することで、特別な教育的支援を要する子どもの早期発見と早期支援につなげた。【志の7①】
- ・6月と12月の2回、「柳井市教育支援委員会」を開催し、医学的・教育的な視点から、総合的に児童生徒に適した就学先について協議

② インクルーシブ教育システムの構築

○ 特別支援教育推進週間の設定 [学校教育課]

- ・全学校で、特別支援教育の視点を意識する取組として、6月は「教室環境づくり」と「学級経営」、11月は「授業づくり」をテーマに各1週間ずつ実施し、学習環境や指導方法、教材の見直し・改善につなげた。

③ 関係諸機関との連携の充実

○ 要請訪問の活用 [学校教育課]

- ・特別支援教育センターや、視覚・聴覚障害教育センターの地域コーディネーターを講師に招いた要請訪問を計23回実施した。授業参観、教育相談、ケース会議及び校内研修等において、専門的な立場から具体的な指導・助言を得た。

④ 教職員の指導力の向上

○ 校内コーディネーター研修会の開催 [学校教育課]

- ・5月に柳井地域1市4町で「柳井地域特別支援教育校内コーディネーター研修会」を実施
- ・田布施総合支援学校の地域コーディネーターを講師として、校内コーディネーターの役割について研修を実施

<「柳井市特別支援教育推進週間」の実施回数> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
23	A	A	A		
主な理由	・全学校において年2回の推進週間を実施し、特別支援教育の視点に立った学習環境や指導方法、教材の見直し・改善につながったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・県教委作成のチェックリスト「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用に向けた確認事項」を基に、「自立活動、交流及び共同学習の時間数の適切な設定ができているか」について、各学校が特別の教育課程を編成する段階で、十分に指導・助言する必要がある。

[参考] 特別支援を要する学習環境の種別(R6.3.31)

	通常学級	通級指導	特別支援学級	特別支援学校
指導内容	個々の障害に配慮しつつ通常の教育課程に基づく指導	通常学級に在籍しつつ、一部別に障害に応じた指導	障害に応じた教育課程に基づく指導	障害に応じた教育課程に基づく指導
対象	学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、高機能自閉症(HFA)、その他発達障害の可能性のある児童生徒	言語障害、情緒障害、学習障害、弱視・肢体不自由等の障害により、一部別に指導を要する児童生徒	知的、弱視・肢体不自由・難聴等の障害により、通常学級では学習が困難な児童生徒	知的、弱視・肢体不自由・難聴等の障害により、通常学級では学習が困難な児童生徒
指導要領	小・中学校学習指導要領	小・中学校学習指導要領	小・中学校学習指導要領	特別支援学校学習指導要領
設置状況	市内 14 校	柳井小(ことばの教室)、新庄小	市内 11 校	田布施総合支援学校、周南総合支援学校、山口南総合支援学校、下関南総合支援学校等

志の6 生徒指導の充実

業務の 対象	教職員	意図(対象 をどうし たいのか)	いじめや不登校等の課題に対応できる指導力の向上 を図る。				
指標	「柳井市いじめ問題研修 会」の開催回数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		1	1	1	1		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	600 千円	600 千円	573 千円				

[主な取組の成果と有効性]

① 相談支援体制の充実

- スクール・ソーシャルワーカーの配置 [学校教育課]
 - ・ 3人のSSWを6校の小・中学校に派遣し、94日127時間稼働
 - ・ 問題を抱える児童生徒へ働き掛けを要する事案が12件、新規事案が7件

② SNSトラブルへの新たな取組の推進

- 中学生主体の研修会の開催 [学校教育課]
 - ・ 7月に柳井警察署との共催による「少年リーダーズサミット」を開催。スマートフォンやアプリ、SNSの使い方から、「使用する上での注意やルール」を生徒自身が提案

③ 関係機関との連携の充実

- 「要保護児童対策地域協議会」での情報共有 [学校教育課]
 - ・ 不登校、児童虐待、家庭の問題及び発達障害等、個別のニーズや課題に応じた構成メンバーを選定し、児童生徒一人ひとりを丁寧に支える体制を確保。しなやかスクール(適応指導教室)では、不登校等の児童生徒の指導体制を確保

④ 教職員の指導力の向上

- 「柳井市いじめ問題研修会」の開催 [学校教育課]
 - ・ 6月に「生徒指導主任研究集会兼いじめ問題研修会」を開催
 - ・ 市家庭児童相談員を講師として「いじめの認知と不登校対応における各校の成果と課題」について協議・研修を実施

<「柳井市いじめ問題研修会」の開催回数> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
24	A	A	A		
主な理由	「柳井市いじめ問題研修会」を予定通り開催できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ 増加傾向にある不登校児童生徒の課題に対して、新規不登校を出さない取組と継続不登校を減らす取組とを分けて考え、適時効果的に対応していく必要がある。
- また、継続して、適応指導教室(しなやかスクール)の充実を図るとともに各学校や保護者との連携強化をさらに進める必要がある。

志の7 幼児教育の充実

業務の 対象	幼稚園・保育園（所）、 小学校	意図(対象 をどうし たいのか)	幼児期における子どもの育ちを十分に把握し、連携 の推進を図る。				
指標 25	「保育・幼児教育体験」 の実施回数（回/年）	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		1	1	1	1		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0 千円	0 千円	0 千円				

[主な取組の成果と有効性]

① 連携体制の充実

- 幼稚園・保育園（所）への巡回訪問 [学校教育課]
 - ・地域コーディネーター、保健師、家庭児童相談員、及び指導主事で構成する「柳井市特別支援専門家チーム」を設置し、市内 13 ある幼稚園・保育園（所）に巡回訪問を実施
 - ・9月に「就学予定児童情報連絡協議会」を開催し、巡回訪問後の情報整理や教育支援委員会への意見集約を行い、特別な教育的支援を要する子どもの早期発見・早期支援につなげた。

② 交流機会の促進

- 交流機会の確保 [学校教育課]
 - ・8月に教員5人が、3ヶ所の幼稚園・保育所（園）の「保育・幼児教育体験」に参加し、園生活の体験や園児との触れ合いから、学校生活における指導の工夫・改善につなげた。

<「保育・幼児教育体験」の実施回数> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
25	A	A	A		
主な 理由	・各園の協力により、予定通り実施できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・保育から教育へのつながりを見据えた「架け橋期のカリキュラム」の実践への取組から、学校での指導方法やカリキュラムを改善、充実させていく必要がある。

志の8 教職員の資質向上

業務の 対象	児童、生徒、 学校関係者	意図(対象 をどうし たいのか)	保護者や市民の信頼に応え、学校課題に適切に対処し、1人ひとりの子どもを伸ばすことができる教職員の育成をめざす。				
指標	「克己堂」の開催 (全校)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		13	13	10	12		
経費	R 3		R 4		R 5		R 6
	0 千円		0 千円		0 千円		R 7

〔主な取組の成果と有効性〕

① 多様な教育課題に対する力を付けるための研修の充実

○ 多様な教育課題に対応する研修会の開催 [学校教育課]

- ・「ICT活用研修会」を開催。内容を年度内還元させるため実施を1月から10月に見直し
- ・「柳井市ICT活用推進プロジェクトチーム（YIP）」を3回開催。ICT支援員を加え6人体制とし、現場のニーズや課題に応じた提案をできるようにした。

② キャリアステージに応じた研修の充実

○ 人材育成の研修会開催 [学校教育課]

- ・若手教員（1～3年目）を対象とした「フレッシュ合同研修会」を開催し、3年目教員の実践発表をもとに、参加者が今後のキャリアビジョンについて考察。29人参加
- ・ミドルリーダーが授業公開や運営を務めた「克己堂」授業研究会を16回開催し、特に、アクティブラーニングのある授業づくりについて協議

③ 質の高い学習指導を実現するための研修の充実

○ 「克己堂」授業研究会の開催 [学校教育課]

- ・アクティブ・ラーニングのある授業づくりを目的に16回開催し、子どもたちの学びの振り返りを共通の視点として協議することで意識の向上を図った。延べ501人参加
- ・他校の授業研究会には必ず1人1回以上参加することとし、校内研修の活性化を図った。

④ 子どもや保護者と向き合う時間を確保するための業務改善の推進

○ コミュニティ・スクール運営推進書の位置付け [学校教育課]

- ・コミュニティ・スクール経営案を運営推進書として活用した取組を実践

<「克己堂」の開催> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
26	A	A	B		
主な理由	・カリキュラム等の都合により、「克己堂」授業研究会を開催できなかった学校があったため。				

[今後の課題と改善案]

- ・研修の意義や様子を周知するなどして、全学校における開催を進めていきたい。
- ・教職員の授業研修がより深まるよう実施内容等について随時改善を進めていく必要がある。

[参考] 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について



文部科学省国立教育政策研究所

https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/r02/r020603-01.pdf



4-(1) 情報発信の充実

業務の 対象	市内外全般	意図(対象 をどうし たいのか)	本市の教育環境と活動、これからめざす教育の姿を わかりやすく伝える。				
指標 27	市ホームページの更新 頻度(回/月)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		1	1.67	1.63	1.83		
28	指導主事の学校訪問に よる情報発信サポート (回/月)	1	1	1	1		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0 千円	0 千円	0 千円				

[主な取組の成果と有効性]

① 市ホームページの充実

○ 市ホームページの更新 [教育総務課]

- ・更新(回/月)は教育総務課 1.0 回、学校教育課 0.9 回、生涯学習・スポーツ推進課 2.1 回、文化財室 0.1 回、柳井図書館 4.8 回、サンビームやない 1.7 回、給食センター 2.2 回

② 各小・中学校による情報発信の充実

○ 学校へのサポート [学校教育課]

- ・スクール・コミュニティの概要や、全国学力・学習状況調査の結果等の情報を随時掲載

○ 興味・関心のあるホームページの開設 [学校教育課]

- ・経営方針や学校行事、学校だより、地域情報等の随時発信と、内容の充実を図っている。

<市ホームページの更新頻度> [教育総務課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
27	A	A	A		
主な理由	・更新頻度に差はあるものの、月平均 2 回に近づく更新結果となったこと。				

<指導主事の学校訪問による情報発信サポート> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
28	A	A	A		
主な理由	・担当指導主事制度のもと、各学校に継続的に訪問し、情報収集と発信に努めたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ページの意図が簡単に読み取れるよう、内容がわかりにくい表示は避ける必要がある。
- ・定期的に更新され、タイムリーな情報提供となっているか随時確認することが必要である。

4-(2) 安全で快適な学びの環境づくり

業務の 対象	児童、生徒、 学校関係者	意図(対象 をどうし たいのか)	安全で快適な施設・設備の整備により、安心して学べる教育環境を提供する。				
指標 29	学校施設非構造部材 (屋内運動場)の耐震化率 (%)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		100	78.6	85.7	85.7		
30	通学路の合同点検 (回/年)	1	2	1	1		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	203,286 千円	225,803 千円	213,118 千円				

〔主な取組の成果と有効性〕

① 学校施設の安心・安全な教育環境の確保

○ 学校施設の改修 [教育総務課]

- ・日積小水源ポンプ給水配管改修、柳東小中庭改修、新庄小プールろ過配管改修、遊具改修、大畠小屋内運動場改修等を実施

② 教育環境の質的向上

○ 教育環境の改善 [教育総務課]

- ・柳東小特別教室(理科室・家庭科室・図工室)・職員室、柳井小校長室・保健室、柳井中特別支援教室、大畠中理科室・保健室に空調機を設置・移設改修
- ・柳井中(和 51 洋 12→和 14 洋 40)、大畠中(和 2→洋 1)のトイレ洋式化改修

③ 通学の安全対策の推進

○ 通学路の合同点検 [教育総務課]

- ・国、県、市の道路管理者、警察、学校等により柳井市通学路安全推進会議を開催
- ・改善要望箇所のうち新規分について、関係者による現地合同点検を 1 回実施

○ 遠距離通学への支援 [教育総務課]

- ・小、中学校 4 校 10 台のスクールバスを運行。対象の児童生徒数は 150 人
(日積小、柳井南小、大畠小、柳井中)
- ・路線バスの廃止に伴い、スクールタクシーを運行。対象の児童数は 4 人
(伊陸小、柳北小)
- ・離島高校生の通学費用の補助(平郡東～柳井港、対象の生徒数は 1 人)

④ 安心安全メールシステム

○ 安心安全メールシステム [学校教育課]

- ・各学校の安心安全メールを活用し、防犯や災害、鳥獣に関する情報を随時配信

⑤ 感染症対策の推進

○ 「文部科学省等の通知やマニュアル等」に基づく衛生管理 [学校教育課]

- ・ 5類感染症への移行後における学校での感染症対策の基本的な考え方として、健康観察や換気の確保、手洗い等の手指衛生の指導、咳エチケットの指導、マスクの取扱い、清掃、及び抵抗力を高めること等を平時の対策としつつ、感染状況に応じて、機動的に継続して対策を実施することができた。

<学校施設非構造部材(屋内運動場)の耐震化率> [教育総務課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
29	B	B	B		
主な理由	・ 未施工箇所が2ヶ所あること。				

<通学路の合同点検> [教育総務課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
30	A	A	A		
主な理由	・ 現地において、関係者による合同点検を1回実施したこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ 校舎の耐震化率は、令和元年度末で 100%達成済。非構造部材の耐震化未施工分は伊陸小屋内運動場と大畠中武道場の2箇所、うち伊陸小屋内運動場は、令和6年度に実施設計、7・8年度に改修工事を予定している。
- ・ トイレの洋式化は、全小学校の普通教室を令和2年度末、柳井中を本年度に改修を完了した。また、大畠中屋内運動場を令和6年度、柳井西中1階と屋内運動場を令和7年度に予定している。
- ・ 令和4年2月、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「柳井市ゼロカーボンシティ」の実現に向けた挑戦を開始する宣言をしている。施設整備、運営の観点から、削減に取り組む必要がある。

[参考]

全ての子供たちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方
(5つの姿の方向性)

https://www.mext.go.jp/content/20220328-mxt_sisetuki-000021509_1.pdf

4-(3) 学校の適正規模・適正配置

業務の 対象	児童、生徒、 地域住民	意図(対象 をどうし たいのか)	地域の実態に配慮しつつ、一定の教育の機会均等や 教育水準の維持向上を確保する。		
この項目の指標は定めていない。					
経 費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	3,687 千円	3,590 千円	3,519 千円		

[主な取組の成果と有効性]

① 学校の適正規模・適正配置

- 適正規模・適正配置の検討 [教育総務課]
- ・ 児童生徒の推移や地域の状況等の把握

② 廃校跡地の活用

- 廃校跡地の有効活用の検討 [教育総務課]
- ・ 旧阿月小、旧神西小、旧遠崎小、旧平郡西中、旧日積中、旧伊陸中、旧柳井南中の7校
- ・ 旧神西小は、平成31年3月からビジコム柳井ラボ・サテライトオフィスとして貸付
- ・ 旧阿月小は、跡地に阿月出張所・公民館を整備中(令和6年度完成見込)
- ・ 旧柳井南中は、跡地に特養ホーム伊保庄園の移転等を検討

[今後の課題と改善案]

- ・ 規模にかかわらず、標準的な教育の機会と水準を確保する必要がある。
- ・ 児童生徒の減少がこれからも進む状況において、目の行き届いた指導や多様な学習機会の損失など、児童生徒にとっての、また、学校運営上にとってのプラス面マイナス面を改めて確認し、協議していく必要がある。

今日のウェルビーイングの考え方は、授業以外の場面も含めて児童生徒一人一人が満ち足りた学校生活をおくるためのコンセプトである。場面や機能を分けて個々に対応するのではなく、学校生活全体の調和を重視し、包括的・統合的・全人的に捉える指針であり、質的充実がむしろ学習の基盤として必要であることを強調するものであるといえる。

『ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイディア集』

令和6年9月、学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/066/toushin/mext_01888.html

4-(4) ICT環境の整備・充実

業務の 対象	児童、生徒、教職員	意図(対象 をどうし たいのか)	多様な子どもたちを誰一人残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 I C T 環境を実現する。		
この項目での指標は定めていない。					
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	51,440 千円	36,522 千円	48,449 千円		

[主な取組の成果と有効性]

① ICT学習環境整備の推進

○ ICT学習環境整備の推進 [教育総務課][学校教育課]

- ・令和3年3月、児童生徒教職員へのタブレット端末貸与と、普通教室にWi-Fi環境を整備
- ・インターネット環境が整わない保護者家庭に、貸出用のWi-Fiルーターを整備
- ・令和4年5月から、児童生徒、保護者、教職員の質問等に対応する一元的な問い合わせ窓口となるヘルプデスクを設置(電話、メール、問合せフォーム、チャットボット)
- ・児童生徒が家庭において、ふりかえりや発達段階に応じた学習を行えるようにするため、持ち帰り学習を実施

○ 山口県統合型支援システムの整備運用 [学校教育課][教育総務課]

- ・令和6年4月からの運用開始に向け、成績処理、出欠管理、授業時数管理等の教務系と、健康管理等の保健系、指導要録等の学籍系の機能を有する「山口県統合型支援システム」を県市町共同調達での導入準備

[今後の課題と改善案]

- ・山口県統合型校務支援システムの円滑な運用に向けてのヘルプデスクの活用など、教職員の負担軽減・働きやすさの向上を図ることとしている。
- ・教育データ活用によるエビデンスに基づいた学校教育の変革等、デジタル技術とデータを活用して教育DXを推進していくことが必要である。
- ・タブレットの更新に際し、前回同様に県内市町共同調達に向け、山口県ICT協議会等において協議している。近隣市町の動向や費用対効果を踏まえ、児童生徒にとって有用性の高い機種の選定を行う必要がある。
- ・学習活動において幅広くICTを活用できるようにするため、タブレットが利用できるWi-Fi環境の拡充が必要である。

4-(5) 学校教材、図書の整備・充実

業務の 対象	児童、生徒	意図(対象 をどうし たいのか)	基礎的・基本的な学習理解を助け、思考力・判断力・ 表現力や情報活用能力などを養う教育効果を高め る。				
指標 31	学校司書の配置 (全校)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		14	7	7	7		
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	13,765 千円	17,412 千円	14,991 千円				

[主な取組の成果と有効性]

① 学校図書館の充実

○ 学校図書館の整備 [学校教育課] [教育総務課]

- ・児童生徒の学びを広げ、深めるための図書・資料の充実を図った。
- ・図書購入費実績は、小学校費 3,588 千円、中学校費 1,900 千円、前年比微増
- ・全小中学校に学校司書を配置し、学習センターとしての学校図書館の役割を担っている。

○ 学校図書館図書標準の向上 [教育総務課]

- ・学校図書館図書標準達成率は、14 校中 8 校が 100%以上を達成（単純平均 111.5%）

② 教材や設備等の整備

○ 学校教材・備品の計画的な整備 [教育総務課]

- ・各学校からの要望にあるスクールロッカー、糸鋸盤等備品のほか、顕微鏡や振り子実験機等の理科備品を整備

<学校司書の配置> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
31	C	C	C		
主な理由	・学校司書 7 人が、学校の規模等に応じて 1 校または 2 校、もしくは 3 校を担当し、実質的に全校へ配置して効果・効率の高い推進活動を行っているが、成果指標とする 1 校 1 人配置が達成していないため。				

[今後の課題と改善案]

- ・語彙力や文章力の向上、時代に応じた多様な価値観の醸成を育んでいくためにも、選書の方法については、各学校においての共通認識が必要である。
- ・各校の好事例を学校図書館担当や学校司書間で共有し、児童生徒の読書活動のさらなる充実に向けた取組が必要である。

(4) 令和5年度の重点事項における個別評価

《学校教育》-----

学 01)「学校・地域連携カリキュラム」を活用し、「社会に開かれた教育課程」の実現を図り、子どもたちの資質・能力を高めます。

→【夢の5関連】 総合的な学習の時間や各教科等との関連を図りながら、地域の方々に参加していただく授業について、「学校・地域連携カリキュラム」の見直しを図る学校が増えてきた。地域の方々の授業への参画が、子どもたちの資質・能力を高めることにつながることを引き続き周知していきたい。

学 02) 学校運営協議会の熟議の充実を図り、地域協育ネット、学校応援団の機能を活用し、学校・家庭・地域の協働による教育活動を強化します。

→【夢の1,夢の2,夢の3関連】 子どもを交えた熟議を行い、地域の方々とともに話し合いの内容を具体的な活動につなげる学校が増えてきた。このことを通して地域の方々の参画意識が高まり、学校応援団の活動が充実してきた。

学 03) いじめ、不登校への積極的な取組として、自己肯定感や他者肯定感を高め、人間関係調整力を育成するために、活力ある集団づくりに努めます。

→【志の6関連】 スクールカウンセラーによる「思春期グローイングハートプロジェクト」において、全小中学校で児童生徒への「心理教育プログラム」を実施した。また、担任との教育相談を定期的実施した。各校において発達支持的生徒指導の体制づくりを支援していきたい。

学 04) 学習の積み上げが成果として顕著に表れる算数・数学の特定の教科に焦点を絞り、基礎・基本の確実な習得に向けた指導を集中的に行うことで、子どもたちの学びの充実を図ります。

→【志の1関連】 小学校3・4年生が在籍する全小学校に算数補助教員を配置し、少人数指導による指導の充実を図った。年に3回、四則計算実態調査(Yベース)を実施して定着度を図っているが、着実に成果が表れている。今後さらに検証を進めながら、より効果的な授業形態や指導体制を模索していく。

学 05) 1人1台タブレット端末等を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、すべての子どもたちの可能性を引き出す主体的、対話的で深い学びの研究を推進します。

→【志の1,4-(4)関連】 小学校2年生から中学校3年生のタブレット端末にAIドリル(ミライシード)を導入し、個別学習や家庭学習の充実を図った。各授業における利用が進んでおり、成果が期待できる。今後は、児童生徒一人ひとりの課題や習熟度、また部活動等での使用に適したアプリの活用を進めていきたい。

学 06) 言語活動・情報教育の充実や英語教育の推進を通して、コミュニケーション力や表現力、情報活用能力の育成を図ります。

→【志の 8 関連】 アクティブ・ラーニングによる深い学びを進める中で、「仲間と試行錯誤しながら、より多くの考えや情報をつなぐ活動」や「仲間と協働して、自分たちなりの答えを練り上げる活動」、「話し合ったことを表出する活動」など協働的な学びの場を設ける授業が増えており、表現する力の育成を図っている。

学 07) 複式学級等の指導方法について、学級集団づくりや学習リーダー等の研究を深め、小規模校での学びの充実を図ります。

→【志の 1 関連】 複式学級のある学校ではリーダー学習の手引き等が示され、子どもたちが主体的に学習に取り組む様子が見られる。また、少人数の強みを生かして学力保障の個別支援にも力を入れるとともに、少人数の学校間で連携して合同学習や合同行事を行うことで、協働的な学びの充実も図った。

学 08) 子どもたち一人ひとりの学力を保障するために、データに基づいた学力向上に向けた指導の充実を図ります。

→【夢の 1, 夢の 2, 夢の 3 関連】 全国学力・学習状況調査をはじめ、各種学力調査の結果から、子どもたちの課題を分析し、授業改善に活かしている。また、すべての子どもたちが該当学年で身に付けるべき学力が身に付けられるよう、全校体制で朝学や夕学等の補充学習を行う学校が増えている。

学 09) 教職員一人ひとりの個性を生かした組織づくりや働きやすい環境づくりを進め、地域や関係機関との連携による「チーム学校」としての機能強化を進めます。

→【志の 8 関連】 各校がコミュニティ・スクール経営案を作成し、地域の中にある学校として、様々な方々に協力していただきながら進める学校運営体制を構築している。学校内の分掌については、適材適所に努め、円滑な校務運営と働きやすい環境づくりにつなげている。

学 10) 中学校生徒の給食費無償化により、子育て世帯の経済的負担を軽減します。

→【志の 3 関連】 中学校生徒の給食費無償化のため、給食費の経理を担っている柳井市学校給食会へ、中学校生徒分の給食費を補助した。

《社会教育》-----

社 01) 学校教育と両輪で進めるスクール・コミュニティに取り組む体制を構築します。

→【夢の 1, 夢の 2, 夢の 3 関連】 学校運営協議会や地域教育ネットの在り方について見直すことで、よりよいスクール・コミュニティの在り方についても研究することができた。

社 02) 地域に伝わる知恵や技術の伝承活動を促進します。

→【愛の7, 夢の5 関連】 感染症対策による行事の縮小はあったものの、多くの行事は再開された。一定期間の休止はあったものの、地域に伝わる知恵や技術の伝承活動の保存及び継承について引き続き支援する。

社 03) 自然体験活動を促進し、しなやかでたくましい子どもを育てます。

→【愛の2, 愛の5 関連】 星の見える丘工房設置の天体望遠鏡を活用し、星雲や惑星の観察、四季の星座を自分の目で確かめる天体観測会を2回開催した（天候不順により2回中止）。日常生活とは異なる神秘的な感動を通じて、季節や自然や天文学といった幅広い興味への体験を学ぶ取組となったと考えている。そのほか、野外活動や動植物の観察など、安全対策も含めての機会の提供に努めていきたい。

社 04) 公民館活動における学習講座を工夫し、交流や生きがいづくりを図ります。

→【愛の2 関連】 中央及び各地区公民館それぞれのニーズに合った各種教室等を企画し、地域住民の教養の向上や交流、子どもの体験活動等の実施に努めた。中央公民館では、定期講座 11 講座と単発講座8回、地区公民館では、定期講座5 講座と単発講座 53 回、山口県立大学サテライトカレッジを3回開催した。

社 05) 家庭教育支援チームを強化し、家庭教育に不安を抱える保護者等への相談活動を充実します。

→【夢の5 関連】 就学時健診における講座の形式を工夫して取り組んだことで取組の充実を図ることができた。

社 06) 学校図書館司書やボランティア団体との連携を図ります。

→【愛の2 関連】 学校司書との連携会議を2回開催した。6月には講師を招いて、「学校教育と学校図書館について」の講演会を開催、10月には児童書の見計らいを開催し、児童書の充実を図った。また、10月からみどりが丘図書館開館に向けて図書館サポーターの募集を行い、58名の応募があった。2月にサポーター説明会を開催した。

社 07) 市民活動センターとの連携を進めます。

→【愛の2 関連】 みどりが丘図書館開館に向けて、貸室の運用をはじめ、業務内容について今後どのように連携を図っていくか協議を行った。

社 08) 地域資料のデジタル化を進め、デジタルアーカイブサイトの充実を図ります。

→【愛の2 関連】 令和5年度については、資料のデジタル化を行わなかったものの、引き続き資料のデジタル化を充実させていく。

社 09) 幅広い世代において本に親しむ心を養うため、本と接する機会の提供と興味・関心の醸成を図ります。

→【愛の2関連】 マタニティ・ブックギフト事業を開始し、妊娠期から読み聞かせを行うことで親子の絆をより深め、子どもの誕生後も親子で絵本を親しむ機会を提供していく。

《スポーツ・文化》-----

ス 01) スポーツ少年団の啓発活動を工夫し、活性化を図ります。

→【愛の5関連】 スポーツ少年団団員募集冊子を市内の全児童と体育施設へ配布し、各団のPRを行った。また、恒例の親子交歓会を開催し、多種目他団体の団員同士の親睦を図った。

ス 02) バタフライアリーナ、ビジコム柳井スタジアム、弓道場等のスポーツ施設の利便性向上に向けた整備を図ります。

→【愛の5関連】 老朽化した施設の改修工事を計画、実施するとともに、設備等の故障・不具合については適宜改修などを行った。また、大規模改修に伴う体育館休館で影響を受ける団体に対し他施設のへ振り替えやきめ細やかな利用調整等の対応を行い、利用者の不安解消に努めた。

ス 03) 音響設備の優れたサンビームやないの特性を活かし、利用促進に努めます。

→【愛の4関連】 公演等に支障をきたさないよう設備機器の更新を行っており、今後も計画的に施設の改修工事を進め、維持管理と利用促進に努める。

ス 04) しらかべ学遊館や月性展示館等の展示施設を活用し、郷土の文化財や人物の情報を発信します。

→【愛の6関連】 しらかべ学遊館において、「黒島浜遺跡と与浦遺跡」を開催した。茶臼山古墳資料館では、山口県立山口博物館が開催した『やまぐち大考古博』特別展示に出土品などを出品し、広く茶臼山古墳の周知に努めた。

ス 05) 地域の文化遺産について調査・研究を深め、郷土愛の醸成と保全・継承に努めます。

→【愛の7関連】 通称「むろやの園」と言われている小田家（商家資料・生活用具・町家が県有形民俗文化財指定）の文化財的価値を再評価するため、学識経験者等による建造物調査・民俗調査・文献調査等を行った。本事業は、令和5年度から令和7年度までの3か年計画で実施する。

ス 06) 地部活動の地域移行に係る改革を進めます。

→【愛の5関連】 やない部活動改革推進協議会で地域移行方針を協議し、生徒や保護者、地域の人たちに説明の機会を設け、地域連携（指導者・指導員の配置）と地域移行を並行して検討することを丁寧に説明し、部活動に対する不安軽減を図った。

《環境整備》-----

環 01) 新型コロナウイルス感染症等に関する最新の知見を踏まえ、学校における衛生管理に努めます。

→【４－（２）関連】 ５類感染症への移行後における学校での感染症対策の基本的な考え方として、文部科学省等の通知やマニュアル等に基づき、健康観察や換気の確保、手洗い等の手指衛生の指導、咳エチケットの指導、マスクの取扱い、清掃、及び抵抗力を高めること等の平時の対策のほか、感染状況に応じて、機動的に継続した対策に努めている。

環 02) 学校施設の安心・安全対策として、柳井市学校施設長寿命化計画に基づき、老朽化対策等の施設改修を進めます。

→【４－（２）関連】 全学校校舎の耐震化は、令和元年度に完了している。その後は、屋内運動場の非構造部材の耐震化に取り組んでいる。令和５年度は、大畠小学校屋内運動場改修工事を実施し、令和６年度からは、伊陸小学校屋内運動場改修に取り組む予定としている。

環 03) 安全で快適な学びの環境づくりのため、特別教室の空調設備の整備やトイレの洋式化を計画的に進めます。

→【４－（２）関連】 普通教室棟における空調設備は、令和元年度に全小中学校の整備が完了し、特別教室等への設置に取り組んでいる。令和５年度は、柳東小学校の理科室、家庭科室、図工室に設置した。また、普通教室棟におけるトイレの洋式化は、令和２年度に全小学校の整備が完了し、令和５年度は、柳井中学校普通教室棟の改修工事を実施した。

環 04) G I G Aスクール構想により整備した通信ネットワーク及び１人１台タブレット端末の適切な維持管理に努めるとともに、ＩＣＴを活用した学習環境の整備を進めます。

→【４－（４）関連】 令和３年３月に、児童生徒教員用のタブレット端末(iPad)と、ネット環境を整備している。令和５年度は、翌年度の山口県統合型支援システム運用開始に伴う共同調達準備とセキュリティ強靱化を図った。

環 05) 教員のＩＣＴ活用指導力の向上やＩＣＴ機器の操作支援を行うため、ＩＣＴ支援員を配置し、教員へのサポート体制を強化します。

→【４－（４）関連】 ＩＣＴ支援員の雇用と、児童生徒、保護者家庭、教職員へのタブレットなどＩＣＴ機器活用に関しての助言や操作支援を行うことのできるヘルプデスクを設置した。また、教員が授業においてＩＣＴ機器を効果的に活用するための研修を実施した。

5 学識経験者の知見

(1) 点検及び評価全般

- ・算数、数学への補助教員の取組が2年目に入っている。抽象的な学習内容が増加する小学3・4年生へ焦点をあてることは評価できる取組と思う。ただし、今回、その成果の捉え方として、四則計算実態調査の定着、徹底をあげている点は、検証方法としてずれが生じていないだろうか。

例えば、 π を使うと計算自体は簡単になる。しかし、どうして公式が成り立つのかを理解していないと、公式を忘れると答えが出せない。3・4年生で重要なこととして、円の面積がなぜ円周率で出せるのか、直径と円周の関係はどうなのかを考えることは大切で、抽象的だからこそ、具体的に測ってみたり、試してみたり、それで納得したり、そういった学習活動の補助が必要なんだろうと思う。

これらは、従来の教師と子どもの人数関係では、概ねできなかった状況の中で、新たに補助教員を配置したことで可能となった。算数に限らないが、きめ細かな指導とは、そういった意味において成果を求める方向にあってほしいと思う。

- ・この点検評価は、「第2期柳井市教育大綱・教育振興基本計画」に基づく「令和5年度柳井市の教育」の評価である。基本計画は、アンケートを実施して、市民の皆さんにも参画をしてもらって作ったもの。この評価は、学校や地域だけでなく、「みんなが柳井市のために頑張っていて、いまがこんな感じですよ」ということを表すものでもあるので、実績等々は、もっと、しっかりアピールした方が良い。併せて、ここにどう関わってもらえますかといったメッセージ性も加味した課題や改善案の書きぶりがあっても良いのではないかな。

(2) 取組ごとの知見

【1 自分を愛し、人を愛し郷土を愛する教育の推進】 愛の1～愛の7

- ・市内で人権にかかわる問題はあるか。
→[人権教育室] 現時点で大きな問題が生じているとの確認は得ていない。しかしながら、しっかり推進していかなければならないという認識から、学校や地域、企業、職員等の研修会等を通じて、人権意識を高める取組は、引き続き行っていきたい。
- ・企業の研修では、自分の人権感覚を高めるための内容が多い。一方で、学校での研修は、先生個人の人権感覚の向上よりも、児童生徒にどう教えるかという人権教育の内容が多いように思う。
- ・多様性の時代においての人権教育はどう取り組まれているか。
→[人権教育室] 山口県人権指針を基本として取り組んでいる。その中にあるLGBTなどのマイノリティへの理解や、インターネット上の問題など、幅広い価値観や考え方を隔たりなく理解するためにも、幅広い分野の講師を招聘しての研修内容としている。今年度

は、児童虐待に関する内容の研修を開催した。

- ・複合図書館の複合とは、どういうことか。
→[図書館] 一般的に複合とは、いろんな種類の施設が入っているものと理解されるが、この図書館は、図書館機能、子育て支援機能、市民活動支援機能、防災機能という4つの機能を備える複合的な施設として、複合図書館と呼んでいる。
- ・図書館連携会議の開催件数が2回ということで評価はBとなっているが、新図書館の開館に当たっては、幅広い意見を得るため、連携会議以外でも、多くの場所や会議、会合を開催するなど、関係者に大きな苦労があったことは理解している。大きく評価したい。
- ・継承することが難しくなった伝統文化や芸能は多々あるだろうが、現時点において継承ができているものについては、しっかりと映像等で残されたい。
→[文化財室] 昨年度、音声ではあるが神明祭りの録音を行った。昨今は機材も扱いやすくなっているので、残せるようにしていきたい。

【2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進】 夢の1～夢の6

- ・柳井市として、スクール・コミュニティには長く取り組んできているので、評価理由に「再認識」の言葉は合わないのではないか。3年続けてA評価にあるので、前向きな内容にしても良いと思う。
- ・学校運営協議会と学校応援団のレベルが上がってきたと感じている。どこも熟議をしっかりと行って、教職員も児童生徒にも、次につながる内容になってきている。
- ・学校の考え方として、学校応援団を、運営を進めるために必要なツールとして前向きに捉えるか、事務的に扱うかの差は大きいと思う。
躊躇もあるかと思うが、各学校の状況に合わせながらメンバーを変えていくことも必要ではないか。そのための会長の研修会を行ってもよいと思う。
人材発掘が難しいことはわかるが、保護者経験者を入れることも良いのでは。
いまの高校生が、地域の課題を見つけるのも、協議をするのも上手なのは、小学生、中学生の頃の熟議の恩恵を受けているから、しっかりと熟議に取り組んできたからと思う。
そのためにも地域支援のボランティアの質をしっかりと上げて、本人や保護者にとって、このコミュニティ・スクールって良いよねという体感を知ってもらうことが大切だと思う。
- ・今後の課題と改善案の欄を、次年度につながるものになっているかという点で見たときに「一層取り組む」などの「一層」は、抽象的で、より具体的な記述にされたい。
- ・「中高生を含め、学習支援のボランティアを拡充する必要がある」とあるが、近年、参加者が増え、現在30名以上が集まっていると聞いている。

・学校は、生徒が行えるボランティアの場を求めている。

・学校の規模に応じてボランティアの数も決めると良い。

・児童クラブで高校生が教えることはないか。

→[生涯学習・スポーツ推進課] 以前はそういう場があったが、現在は行っていない。

【3 志を実現させるための力の育成】 志の1～志の8

【4 基本方針を支える環境整備】 (1)～(5)

・長期休業期間に異校種の生徒が教師役を務めたとあるが、具体的には？

→[学校教育課] 大畠小に大畠中の生徒、新庄小・余田小に柳井西中の生徒が勉強会に教えに来てくれている。

・家庭との連携、家庭学習の充実がベースにあって、中高生がサポートに入ることが基本にあると思うので、家庭の役割についての記述もほしい。

・給食が無償化になって保護者もたいへん喜んでいる。食べ残しは調査しているか。

→[給食センター] 毎日行っている。献立の種類や、午前中の行事内容によって、残渣量は変わってくる。その状況も踏まえつつ栄養教諭において、残渣の減量化とバランスのある献立作りに努めている。

・しなやかスクールの取組については、もう少し深く記述して良いと思う。

6 今後の取組に向けて

「山口県教育振興基本計画」(2023～2027 年度)では、施策を展開する上での重要な視点として、「コミュニティ・スクールの連携・協働体制を生かす視点」と、「ICT環境を生かす視点」が掲げられました。

本市独自のスクール・コミュニティの取組は、全国的なコミュニティ・スクールの取組を一段進めたものとして、報告のとおり、効果が出始めています。

ICT環境への取組は、「慣れる」から「使う」ステージに入りました。

人口減少と、スピードを増す社会変革に、本市がこれからの的確に対応していくためには、これまでの取組を引き継ぎつつも、さらに、質の改善を求めていくことが必要です。

このたびの点検・評価においていただいた貴重な知見を踏まえ、今後の取組に反映してまいりたいと考えます。



作成：山口県柳井市教育委員会